５年間の目標一覧

1　変化の激しい時代を生き抜く力を育む教育の推進	現状	目標 （平成 33 年度）	目標値の説明
「将来の夢や目標を持っている」と答える子どもの割合 （全国学力・学習状況調査※）	（小６）82.5% （中３）67.0% （平成 28 年度）	（小６）86.0% （中３）72.0%	キャリア教育※を通して、子ども一人一人が夢や目標を持ち、具体的な計画を立て、進んでいく力の育成が必要である。将来の夢や目標を持つ子どもの状況を表す指標として、平成 28 年度国平均（小 85.3%、中 71.1%）をもとに目標を設定
「中学校の英語の授業が楽しみだ」と答える子どもの割合 （小学校英語活動評価アンケート）	72.1% （平成 27 年度）	80.0%	小中連携を進め、小学生が中学校での学びに見通しが持てるようになることが必要である。アンケート結果から中学校の英語教育を不安に感じている小学生は多いことから、中学校英語を期待する子どもの割合を目標として設定
小学校３年生以上を対象とした「情報モラル※教室」を実施している小学校数	３校 （平成 27 年度）	全 20 校	情報モラル※とは、情報社会を健全に生き抜いていく上で身に付けておくべき考え方や態度であり、早期の指導が効果的である。小学校３年生以上を対象に実施した小学校数を目標として設定。※小学校高学年は 16 校で実施、中学校は全校で毎年実施
2　幼児期の教育の充実	現状	目標 （平成 33 年度）	目標値の説明
「教職員は子どもをよく理解して教育している」と答える保護者の割合 （学校評価アンケート）	72.5% （平成 27 年度）	80.0%	幼児の主体的な活動が確保されるように幼児一人一人を理解し、計画的に環境を構成しなければならない。「教職員は子どもをよく理解して教育している」と答える保護者の回答が増加することを目標として設定
三田・三輪幼稚園の預かり保育※実施日数	週３日 （平成 28 年度）	週５日 （平成 31 年度）	幼児教育の多様なニーズに応え、子どもの健やかな育ちを支援するため、利用ニーズが高い三田・三輪幼稚園の預かり保育※実施日数の増加を目標として設定
3　「確かな学力」の育成	現状	目標 （平成 33 年度）	目標値の説明
国語、算数・数学の正答率 （全国学力・学習状況調査※）	（小６） 国語Ｂ　＋4 算数Ｂ　＋4 （中３） 国語Ｂ　＋６ 数学Ｂ　＋９ （単位：ポイント） （平成 28 年度）	小、中学校ともに、すべてのＢ（活用）問題において、全国平均を＋6ポイント以上	全国学力・学習状況調査※において、三田市では全国と比較して、－６ポイント以下を「下回る」、±０ポイントを「同程度」、±５ポイントを「大きな差は見られない」、＋６ポイント以上を「上回る」としている。知識・技能等を様々な場面で活用する力を問うＢ問題について、国平均＋６ポイント以上を目標値として設定 ※参考　平成 28 年度国平均（小　国語Ｂ 58　算数Ｂ 47　中　国語Ｂ 67　数学Ｂ 44）
「自分で計画を立てて勉強している」と答える子どもの割合 （全国学力・学習状況調査※）	（小６）64.1% （中３）45.7% （平成 28 年度）	（小６）67.0% （中３）49.0%	確かな学力を身に付けさせるため、子どもが主体的に学習に取り組む態度の育成が必要である。主体的に学習する子どもの状況を表す指標として、目標は（小）現状値、（中）国平均をもとに設定 ※参考　平成 28 年度国平均（小 62.2%、中 48.4%）

「授業では、学級やグループの中で、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表する等の学習活動に取り組んだ」と答える子どもの割合 （全国学力・学習状況調査※）	（小６）77.1% （中３）74.0% （平成 28 年度）	（小６）80.0% （中３）77.0%	学力向上のため、児童生徒自らが課題を発見し、解決に向けて主体的・対話的で深い学びの実現を図る。児童生徒の主体的・対話的で深い学びを表す指標として、目標は現状値をもとに設定 ※参考 平成 28 年度国平均（小 75.7%、中 69.3%）
「読書が好き」と答える子どもの割合 （全国学力・学習状況調査※）	（小６）71.4% （中３）69.0% （平成 28 年度）	（小６）75.0% （中３）72.0%	読書活動の充実は、子どものことばの力を高め、豊かな感性を育む。学校・幼稚園での読書活動の充実とともに、「さんだっ子読書通帳※」の活用等の取組の推進を含め、子どもの読書意欲の向上を図ることが必要である。読書意欲の向上を表す指標として、平成 28 年度国平均（小 74.6%、中 69.9%）をもとに目標を設定
学校司書※を配置している小中学校	11 校 （平成 28 年度）	全 28 校	学校司書※を中心に、知識を広げ、思考を深める読書活動を充実し、家庭や地域とも連携して児童生徒の読書習慣を身に付けさせることが必要である。すべての小中学校で学校司書※の配置を目標として設定
「理科が好き」と答える子どもの割合 （全国学力・学習状況調査※）	（小６）90.5% （中３）56.7% （平成 27 年度）	（小６）91.0% （中３）62.0%	理科教育において、確かな学力の定着を図るためには、理科への愛好度を高めることが重要である。理科への愛好度を表す指標として、目標は（小）現状値、（中）国平均をもとに設定（現状値は平成 27 年度が最新） ※参考 平成 27 年度国平均（小 83.5%、中 61.9%）
4 「豊かな心」の育成	現状	目標 （平成 33 年度）	目標値の説明
「人が困っているときは、進んで助けている」と答える子どもの割合 （全国学力・学習状況調査※）	（小６）88.6% （中３）87.0% （平成 28 年度）	（小６）92.0% （中３）90.0%	「豊かな心」を育む教育の推進により、思いやりの心を持った道徳的実践力の育成が図られる。道徳的実践力の状況を表す指標として、目標は現状値をもとに設定 ※参考 平成 28 年度国平均（小 84.6%、中 83.8%）
「自分には、よいところがあると思う」と答える子どもの割合 （全国学力・学習状況調査※）	（小６）79.7% （中３）69.6% （平成 28 年度）	（小６）83.0% （中３）73.0%	「豊かな心」を育む教育の推進により、自己肯定感※の向上を図ることが必要である。自己肯定感※を表す指標として、目標は現状値をもとに設定 ※参考 平成 28 年度国平均（小 76.3%、中 69.3%）
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える子どもの割合 （全国学力・学習状況調査※）	（小６）70.6% （中３）45.6% （平成 28 年度）	（小６）74.0% （中３）49.0%	地域の行事に参加し、ふるさと三田で暮らす人々や自然・文化にふれることが必要である。子どもの地域への興味・関心を表す指標として、目標は現状値をもとに設定 ※参考 平成 28 年度国平均（小 67.9%、中 45.2%）
5 「健やかな体」の育成	現状	目標 （平成 33 年度）	目標値の説明
「朝食を毎日食べている」と答える子どもの割合 （全国学力・学習状況調査※）	（小６）95.8% （中３）94.6% （平成 28 年度）	（小６）98.0% （中３）96.0%	朝食の欠食は、子どもの体調不良等、健康面に大きな影響を及ぼす。食を通じた健やかな体の育成を図るための指標として、目標は現状値をもとに設定 ※参考 平成 28 年度国平均（小 95.5%、中 93.3%）

地場野菜使用率	地場野菜使用率 28.5% （平成 27 年度）	地場野菜使用率 35.0%	地元農産物を学校給食に多く取り入れることが必要である。地産地消※の推進に向けた指標として、地場野菜使用率を目標に設定
6 一人一人が大切にされる教育・支援の充実	現状	目標 （平成 33 年度）	目標値の説明
特別支援教育※研修講座（上級）修了者数	41 人 （平成 27 年度）	60 人	特別な支援を要する子どもへの指導・支援の充実を図るため、教員の専門性の向上は重要である。毎年４人以上の特別支援教育※研修講座（上級）修了者数を目標として設定
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答える子どもの割合 （全国学力・学習状況調査※）	（小６）96.4% （中３）91.6% （平成 28 年度）	（小６）100% （中３）100%	子ども一人一人が安心して日々の学校生活を送ることができるために、いじめを許さない学級づくり、子どもの育成に取り組み、いじめを否定する子どもの割合 100%を目標として設定 ※参考 平成 28 年度国平均（小 96.6%、中 93.6%）
不登校児童生徒の出現率	（小学校）0.25% （中学校）2.55% （平成 27 年度）	（小学校）0.14% （中学校）2.34%	不登校児童生徒について、近年は国・県と比較すると減少傾向であるが依然憂慮すべき問題である。過去 5 年間の出現率の本市における最小値を目標として設定 ※参考 平成 27 年度国出現率（小 0.42%、中 2.83%）
小学校に配置する市費スクールカウンセラー※の人数	５人 （平成 28 年度）	８人	不登校・問題行動等の解決のため、教育相談の充実を図る取組として、市費のスクールカウンセラー※の配置学校数の増加を目標として設定
スクールソーシャルワーカー※の配置中学校区	２中学校区 （平成 28 年度）	８中学校区	学校における生徒指導上の諸問題に対して、福祉的な視点から学校に対する支援の充実を図るため、スクールソーシャルワーカー※の全中学校区への配置を目標として設定
7 信頼される学校づくりの推進	現状	目標 （平成 33 年度）	目標値の説明
学校 HP の年間アクセス数が家庭数の 20 倍以上の学校数	18 校 （平成 27 年度）	全 29 校	開かれた学校づくりを推進するためには学校ＨＰの活用等による情報発信が必要である。保護者が月２回以上学校ＨＰを閲覧することを目標として設定
教育研修所※で研修した教員数（延べ）	－	2,500 人	教職員の資質と指導力の向上を図るため、教育研修所※機能を充実させることが必要である。毎年 500 人以上の教員が、自身の研修のために教育研修所※に来所することを目標として設定
教育研究グループ※研究員の割合	20% （平成 27 年度）	20%を維持	実践的指導力の向上を図る場として、教科ごとの教育研究グループ※活動を実施している。研究の充実と参加教員数が重要であると捉え、現状の 20%維持を目標として設定
ＩＣＴ※機器を授業で使用したことがある教員の割合	電子黒板※を使って授業したことがある教員の割合 54.0% （平成 27 年度）	80.0%	情報教育の推進に向けて、今後ＩＣＴ※機器の活用は欠かせないものである。そのため、８割を超える教員が電子黒板※等ＩＣＴ※機器を活用して指導できることを目標として設定

8　教育環境の整備・充実	現状	目標 （平成 33 年度）	目標値の説明
大型テレビを設置している小中学校の普通教室の割合	49.4% （平成 28 年度）	100%	ＩＣＴ※機器を活用した授業を普通教室において、いつでも行える環境づくりが必要である。各小中学校の全ての普通教室に設置することを目標として設定 ※平成 28 年度現在大型テレビを設置している普通教室（310 教室のうち 153 教室）
「こども 110 番の家※」箇所数	874 箇所 （平成 27 年度）	1,040 箇所	地域ぐるみで子どもの安全を守る取組を推進するため、箇所数の増加を目標として設定
9　地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりの推進	現状	目標 （平成 33 年度）	目標値の説明
コミュニティ・スクール※実施校	7校 （平成 28 年度）	全 29 校	学校・家庭・地域が一体となって、子どもを育む仕組みづくりを推進するため、全校で実施することを目標として設定
「トライやる・ウィーク※は地域にとっても有益な活動である」と答える事業所の割合	74.5% （平成 28 年度）	80.0%	トライやる・ウィーク※の実施は、子どもが地元への愛着や誇りを持つこと、地域が一体となって子どもを育てていこうとする気運の向上等も期待できる。本事業に対する地域の有益感を表す指標として過去５年間の最大値を目標として設定
放課後子ども教室※実施学校数	14 小学校 （平成 27 年度）	17 小学校	子どもの遊びや学び、様々な体験等を地域全体で見守り育成する取組を推進するため、実施小学校数の増加を目標として設定
「こうみん未来塾※」の年間参加者数	－	5,000 人	科学技術への関心やチャレンジ精神、グローバルな活躍への気概を持つ子どもの成長を地域全体で支える取組を推進するため、「こうみん未来塾※」の年間参加者数を目標として設定
「人権を考える市民のつどい※」講演の満足度の割合	92.6% （平成 27 年度）	95%以上	部落差別をはじめ、あらゆる差別を解消し、誰もが幸せを感じる人権尊重のまちを実現する取組を推進するため、「人権を考える市民のつどい※」講演の満足度の割合を目標として設定
10　「学び」が活かせる環境づくりの推進	現状	目標 （平成 33 年度）	目標値の説明
有馬富士自然学習センター学習プログラムの参加者数	3,042 人 （平成 27 年度）	3,300 人	自然環境を学習資源とした体験学習や「有馬富士公園生態園」を学習の場とするスクールサポート事業を推進するため、学習プログラム参加者数を目標として設定
「図書館を使った調べる学習コンクール※」に参加した市立小中学校の数	6小学校 8中学校 （平成 27 年度）	全 28 校	学校との連携による学習支援活動を推進するため、コンクールに参加した児童生徒が所属する市立小中学校の数を目標として設定